

～春から外国語、始めてみませんか？外国語のエキスパートがお伝えする6つの講座です～

「知的好奇心への誘い」

受講料：無 料 定 員：150名（事前申込は不要です、当日直接会場にお越しください。）
時間：13:00～14:30（受付開始12:30）

11月5日（土）「ミャンマーの茶文化」（ミャンマー語）

講 師：生駒 美樹（拓殖大学言語文化研究所講師）

ビルマ人（ミャンマー最大多数民族）が好む食べ物を表した「肉は豚、果物はマンゴー、葉物野菜は茶」という言い回しがあります。ミャンマーでは茶を飲み物としてだけでなく、食べ物としても用いており、伝統文化や日常生活に深く根ざした消費が行われてきました。本講座では、茶生産と消費の歴史をたどることを通して、伝統文化や少数民族との交流、現代の食文化について紹介します。またミャンマー語の簡単なあいさつも学びます。

11月12日（土）「いまこそ韓国語」（韓国語）

講 師：村上 祥子（拓殖大学商学部教授）

2000年ごろからの韓流ブームはドラマや音楽、食文化などが主流でした。それらを通して韓国語と現代韓国社会への理解が始まりました。しかし実際の日本と朝鮮半島との交流は古く、今年には埼玉県にあった高麗郡の設置から1300年の年に当たります。長い時間をかけて共有してきた交流の痕跡を再認識して深いつながりを考えたいと思います。そして韓国語の習得はやさしく思えても奥は深いと言われる。韓国語の言葉とその背景である文化の不思議をひも解きます。

12月10日（土）「国語のない国、インドの最大言語ヒンディー語」（ヒンディー語）

講 師：澤田 彰宏（拓殖大学国際学部講師）

仏教発祥の地であるインドは、近年高度経済成長を続け、将来は世界有数の経済大国となることが確実視されています。そのインドは実は多言語、多宗教、多民族国家です。言語は数百あるともいわれていますが、国語はありません。つまり「インド語」はないのです。このインドで最大話者人口をもつのがヒンディー語です。この講座では、ヒンディー語を通してインドについて学んでみましょう。

①インドの言語事情 ②ヒンディー語とはどんな言語？ ③インドの世界遺産や観光地 ④ヒンディー語を話してみましょう。

12月17日（土）「台湾の魅力を探ろう！」（台湾語）

講 師：樂 大維（拓殖大学外国語学部講師）

台湾といえば、何が思い浮かびますか？台北、屋台、小籠包・・・たくさん思い浮かびますね。台湾は歴史的にも文化的にも、日本とは深く長い結びつきがあります。また、グルメ天国として有名で、日本からも大勢の観光客が訪れています。この講座では、食文化をはじめ、流行、生活習慣、観光スポットや言語など、クイズ形式で台湾の魅力をお伝えします。ぜひ、その魅力について楽しく学び、理解を深めてください。

1月21日（土）「ブラジルの多彩文化と言語」（ブラジル・ポルトガル語）

講 師：浜岡 究（拓殖大学言語文化研究所講師）

ロマンス諸語のひとつ、ブラジル・ポルトガル語の特徴は、主語に従って動詞の変化が複雑であること、名詞や形容詞が性・数変化することなど厄介な発音や文法事項にあります。これらの特徴を掴んでどのような言語かを紹介します。

1) ブラジル・ポルトガル語とは 2) ブラジルの歴史と文化 3) ことばの特徴 4) 観光スポット 5) 学習の意義
6) 挨拶など ブラジルに興味を持っていただけるようなプリント読本を配布します。

1月28日（土）「スペイン語圏の言語状況と文化」（スペイン語）

講 師：小池 和良（拓殖大学副学長、言語文化研究所長、外国語学部教授）

スペイン語は主にスペインと中南米諸国で話されている言語ですが、これらの国々ではスペイン語だけが話されているわけではありません。例えば、スペインではスペイン語のほかにガリシア語・カタルーニャ語・バスク語が話されています。中南米に目を向けると、メキシコではマヤ語、ペルーとボリビアではアイマラ語・ケチュア語が話されています。今回はスペイン語を話す国と地域の言語状況と文化をご紹介します。

会場：拓殖大学文京キャンパス 東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷駅」下車徒歩3分

お問い合わせ：拓殖大学オープンカレッジ課 TEL03-3947-7166

受付時間：月～木曜日：13:30～19:00 金～土曜日：11:00～17:00

ホームページでご確認いただけます。

拓殖大学 公開講座 検索